

Development of a scale for evaluating recuperation attitude at the time of education for newly diagnosed type 2 diabetes

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-11-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00060022

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



令和 2年 2月 20日

博士論文審査結果報告書

報告番号

氏 名 高橋 慧

論文審査員

主 査（職名） 須釜 淳子（教授）



副 査（職名） 加藤真由美（教授）



副 査（職名） 稲垣美智子（教授）



論文題名 Development of skill scale for evaluating recuperation attitude at the time of education for newly diagnosed type 2 diabetes

（初期教育における2型糖尿病患者の療養心構え評価尺度の開発）

論文審査結果

【論文内容の要旨】

糖尿病治療は、糖尿病診断後早期より厳格な血糖コントロールを行うことが合併症進行を遅延させることにつながるということが提唱され、患者が初めて受ける糖尿病教育いわゆる初期教育が重要であると着目されてきた。初期教育では、知識の修得にとどまらず糖尿病であることを理解し療養への心構えを持つことが特に重要であると考えられる。

そこで本研究に先行し、質的研究手法にて初期教育にて身につけた初期教育時心構えの様相を明らかにした。本研究は、その様相を基に2型糖尿病患者の初期教育・療養心構え評価を可能にする評価尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検討した。方法は先行研究結果および動機づけ—衛生理論を参考に24項目の尺度原案を作成し、2型糖尿病患者174人を対象に質問紙調査を行い、尺度開発の手法により分析した。

結果、第1因子【糖尿病患者として療養していくことを引き受ける】、第2因子【食生活の悪さを省み直そうとする】、第3因子【総合的に糖尿病を学ぼうとする】、第4因子【今できることをする】の4因子16項目の尺度が作成された。構成概念妥当性は、因子分析の回転前の累積寄与率は65.58%、基準関連妥当性では、糖尿病セルフケア自己効力感尺度および日本語版糖尿病セルフケア行動評価尺度と有意な正の相関、また内容妥当性は、S-CVI/Aveは0.90であった。また尺度全体のクロンバック α 係数は0.86であり、信頼性が確保された。以上より、本尺度の信頼性と妥当性が確認され、2型糖尿病患者の初期教育および療養心構えを測定することが可能と示唆された。

【審査結果の要旨】

本研究は、2型糖尿病患者の“初期教育”の重要性とその際の“心構え”に着眼し、具体的な患者の姿勢を示す尺度を作成した。本尺度は、糖尿病教育における教育内容に新たな視点を示した。今後の初期教育の重要性の評価にも大きく貢献するものであり、糖尿病治療全体へ貢献は大きい。公開審査での質疑は基盤理論についてであり応答は的確であり考察が深まった。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。